

テレビ静岡では番組の適正化を諮るための審議機関「番組審議会」を設けています。

このページでは番組審議会の議事の概要をお知らせしています。現在、テレビ静岡では県内在住の8名の方に審議委員をお願いしており、毎月1回（2月、8月は休会）番組について、ご意見を伺い、今後の番組制作の参考にさせていただいています。

テレビ静岡 平成30年1月度 番組審議会概要

平成30年1月18日（木）

17時00分～18時00分

ホテルアソシア静岡 3階 橋の間

— 出席委員 —

高木 正和(委員長) 戸崎 文葉(副委員長) 石田 美枝子
木村 精治 上柳 正仁 齋藤 照安 五十住和樹 海野洋平

— 議 題 —

番組名 「しずおかがんばった大賞 2017」(年末回顧)

放送日時 平成29年12月29日（金）16時50分～17時45分

制作著作 テレビ静岡

— 番組内容 —

相次ぐスキャンダルに突然の衆院解散と、様々なニュースが飛び交った2017年。そんな一年を振り返り、起こったこんな事やあんな事をフラッシュで紹介するとともに、“気になったニュース”や“印象に残った話題”から、独自の視点で選んだ「がんばった人々」にフォーカスを当てる年末回顧番組。

『ヨットで世界一周をとげた76歳男性の驚愕生活実態』や、『もう一つ盛り上がり欠けるプレミアムフライデーだが、独自展開で静岡は頑張った?』、『飼育長寿記録を連発する水族館の秘密』、『林間学校をホテルにリニューアルした人々の努力の結実とは』、『ミサイル危機でシェルターがバカ売れ』など、「がんばった」人々の話題を掘り下げ紹介した。

— 審議概要 —

○新委員として、五十住和樹氏と海野洋平氏が加わり、正副委員長には、高木委員長・戸崎副委員長が互選の上、選出された。

○編成部が、創立50周年に関するブランドキャンペーンについて、委員に説明した。

◎年末夕方の忙しい時間帯に見やすいテイストの番組だった。

◎庶民を主役にして、全体的に無難にまとまったいい番組だった。

◎ニュースと話題、東・中・西の地域性がバランスよく配されて、落ち着いて観られた。

◎約1時間とは思えないほどの情報ボリュームが多く、構成がよかった。

◎時系列と全国・地域の話題の区分けが混在してゴチャゴチャした印象があったが、仕分けがされていてわかりやすかった。

◎全国の話題を切り口にして、地方の状況に結びつける展開に意味が見いだせた。

◎深掘りした話題はどれも興味を持てた。特に、外国人をホームステイさせる袋井の取り組みには、おもてなしに励む家族の顔が見えて大変好感が持てた。

◎世界一周に挑戦したヨットマンについて、「興味を持てた」、「一本のドキュメンタリー特番とした方がよい」、「静岡とのかかわりが解りにくい」等の意見が出た。

◎「がんばった大賞」という括りについて、「興味を持つことができた」と「がんばっている意味や賞を選抜する基準が不明確でわかりにくい」と意見が分かれた。

◎ドキュメンタリーとバラエティの方向性が両方あり、中途半端だった。どちらか一方を選ぶべきだったのではないか。

◎同じ方向性ならば、来年は視聴者参加型でランキング形式を取り入れた方がよい。

◎一部リポーターが砕けすぎていて不愉快、共感を持ちづらかったのは残念。

◎番組を途中から見た人が話題に入りづらく、もっと演出に工夫が必要だと思う。

◎「インスタ映え」といった流行語は聞き飽きてしまい、陳腐化して響いた。

◎年末回顧のニュースはどこの局もやっているのだから「がんばった」に特化してみても?

○第2部「放送一般についての意見・質問」は、上柳委員が担当し、「『陸王』に見る ビジネスマンが視聴したいテレビ放送とは」として、成人男性とテレビの関係などについて述べた。

以上、制作部門にフィードバックし、今後の番組作りで参考とさせていただきます。

次回の番組審議会は平成30年3月8日(木)の予定です。